りょっぴりの 興奮と感動・・・ 疲れ (^_^;)

第32回ADI国際会議詳報

前号で国際会議の開会式の様子をお知らせしましたが、今号では4月26日の歓迎レセプションから、27日~29日の本番3日間の様子を写真を中心にしてお知らせしましょう。

【26日 前日】

会場の国立京都国際会館に、外国から続々と参加者が到着しだしました。国内の遠方からも見知った顔が次々と来られました。 朝から夕方にかけては、関連行事としてWHOなどが主催する

シンポジウム「認知症に優しい世界 を作る」などが開かれ、午後6時か らは、歓迎レセプションが始まりま した。

レセプションでバーテンダーを務めた 大阪・希望の灯り(若年認知症の人と サポーターの集まり)の人たち



歓迎レセプションの始まり。 高見代表やマーク事務局長、各国代表も あいさつ。着物姿の日本女性も…

【27日·28日·29日 開会式~閉会式】

27日から29日の3日間は国際会議本番でした。

会議の構成は、メインホールでの全体会、各会議室での分科会、ワークショップ、シンポジウムが行われ、イベントホールでは、ポスター発表、各国や企業の展示が行われました。「家族の会」各支部の活動紹介ポスターもここで展示され多くの人の目を引きました。



支部代表・堀井隆子さんの取り組みを発表する富山県分科会で支部の認知症カフェ



本部電話相談員の経験を 発表する京都府支部の越 野稔さん



国内の認知症関係5当事者団体のワークショップ。昨秋のプレイベントに続き、この日本番のシンポジウムを行った



国際認知症連盟のワークショップで

2017 • JUNE

\bigcirc
0
Z
—
П
Z
—
n

●興奮と感動…ちょっぴりの疲れ 第32回ADI国際会議詳報2-3
◆社会が健康を決める?健康なまちづくりで思うこと③ 早川岳人4-5
◆大病を経て、分かったこと 早川一光4-5
総会アピール6
●いきいき「家族の会」―まちでもむらでも 長野県/愛知県/石川県/熊本県7
●本人登場 私らしく仲間とともに 国際会議特別篇 国際会議に参加したみなさん
● "つどい"は知恵の宝庫 (122) 本部電話相談員編 「好きなようにさせて」と言う閉じこもりの母に困っています 9

●「認知症関係当事者団体」紹介① 男性介護者と支援者の全国ネットワーク 10
● 老健局の風 厚生労働省老健局長 蒲原基道11
事務局ほっとコーナー/業務日誌11
●会員さんからのお便り 12 - 13
● 支部だよりにみる介護体験 (155) 宮城県 太田秀敏さん・・・・・・14
● 髙見代表の一筆啓上 ②9415
●編集委員の窓15
●各地のつどい 20

また、イベントホールのカフェテリアでは、AAJ(「家族 の会」) ラウンジとして、認知症カフェ、小物販売、生け 花、お茶席、絵手紙教室、ヨガ教室などが行われて、日本の 文化を紹介するとともに、おおいに国際交流を深めました。

イベントホールは27、28日には一般公開され、2日間で府 市民ら1,000人が来場しポスター発表や展示などを見学し認 知症への理解と関心を深めました。

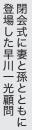
最終日の29日午後からは、閉会式が行われました。ここに は、厚生労働省の蒲原基道老健局長も駆けつけてくれまし た。早川一光顧問もサプライズで登壇し参加者に激励の言葉 を送りました。最後は京都府支部の世話人や関係者が舞台上 に上がり、「ふるさと」の合唱で退場する参加者を見送りま した。

国際会議の参加者は、国内3,200人(うち「家族の会」会 員800人)、海外65ヵ国・地域、800人にのぼりました。そのう ち認知症の人は200人と過去最高になりました。

国際会議の参加者は例年は1,000人規模であることから、 わが国の関心の高さを示しました。会議での口頭発表者は 200人、ポスター発表者は400人。発表内容は、医療科学、ケ ア、非薬物療法、本人の意見、介護者支援など幅広い分野に わたりました。



会議の3日間は毎朝一番に認知症の本人が 思いを語った。最終日は、国際会議組織 委員を務めた杉野文篤さんが登壇した







アルツハイマー協会)(写真はインドネシア各国の展示ブース

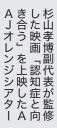


1

生け花体験 AAJラウンジでの



「家族の会」支部の活動 紹介のポスター展示





閉会式には国会の合間を縫って、蒲原基道厚生 労働省老健局長(左端)が駆けつけてくれた



着物姿の京都府支部世話人や会議関係者が壇上から「ふ るさと」を歌いながら、会場を去る参加者を見送った

短歌で年間 大賞受賞

長野県支部

四賀地区の降旗悦二さんは 纏まった文章を書くことが億 劫になった。ご本人は、認知 症の始まりだと仰っている。し かし短歌はボケ防止に良いと投稿

を続け「日本農業新聞読者文芸欄」で、今年 正月の「年間大賞」を受賞した。

受賞作「先ず食って 二つに介護 三つ目 わが百姓は 片手間仕事」。 撰者評 *介



護の現実の厳しさ、百姓が 大事なのはわかっている、 だがそれが出来ないのだ。

さらに今年3月、2週連続の掲載。「お嬶ちゃん、施設へ行くか」と言えず、 片手間でなく両手で百姓を やろうと思う、と支部会報 に投稿している。

手作業で 会報作り

愛知県支部

会報は20頁、2ヵ月ごと、 支部の印刷機で4,000枚、3 時間近くフル回転で両面印刷 し、機械で半分に折ってできあ

がり、800部発行している。編集スタッフが原稿をお願いし、校正してカットな

どを加えて編集している。A3の用紙を機械で半分に折るが、時折調子が悪くなるとずれるので手直しすることもある。



費用がかかるので業者に頼むことができず、もっぱら手作業で内職!内職!紙の山と格闘。会報に関わって10数年、校正しても問題が出てきたりするが、「ぜひスミからスミまで読んでください」と編集者は語っている。

いきき

全国の「家族の会」支部報から活動を紹介!!

「家族の会」まちでもむらでも

編集委員/小宮俊昭

地域活動で 介護者の 気持ちを報告

石川県支部

会員の飯田芳枝さん、岡崎 ひろ子さんは、金沢市新堅町 社会福祉協議会・民生委員児 童委員協議会主催の、まちぐる み推進員、民生委員、一人暮らし



高齢者の合同研修会と 食事会に参加した。社 会福祉協議会は「誰も が安心して豊かに暮ら せる、みんなで支え合

う健康と福祉のまちづくり」がモットーで、 一人暮らしの高齢者を囲んで関係者と馴染み ができるよう話し合いながら食事会をした。

お二人は、家族としてケアマネジャーとの関係性や、SOSが出しにくくても地域の方に早めに認知症であることを伝える勇気を持つなど、家族だからこそ伝えられることを報告した。

熊本地震から1年 在宅介護家族の声

熊本県支部

熊本地震から1年。在宅介 護をしている方が、当時を振 り返って思いをつづってい る。

杉山正見さんは発生時、妻が 通所していた施設に夫婦で受け入れてもらって、妻の介護に大きな安心感を得られ「不幸 中の幸い?」。伊藤純さんは避難先で、母の リハビリパンツ交換を介護職の人が手伝って

くれたり、セブンイレ ブンが避難先まで宅配 弁当を届けてくれた。 夫を介護中の久我千代 子さんは福岡へ一時避 難、益城町に戻って仮 設団地に入居。



3人の方は多くの方のご支援のお陰と感謝 を述べている。



国際会議に、本人登場!

4月26日〜29日に開催した第32回国際アルツハイマー病協会国際会議で、活躍された4名の認知症ご本人を紹介します。

杉野文篤さん (京都府)

28日冒頭、森俊夫先生とご夫妻で登場。「今、我々が壇上を占拠してますが…」と投げかけられ、「学生時代にも占拠していたことがあるので(たぶん学生運動?)…」。「意味深いことを始められましたね」との投げかけには「やりたいことをやっただけ、そんなノーブルな高尚な気持ちはなかった」。「あれは杉野さんの命名でしたよね」と問われ、「私には覚えがなく、確か森とかいう人が付けたはず」。訥々とした語りの中のユーモアが秀逸でした。





芦野れい子さん (富山県)

29日、本人スピーチにご夫妻で登場。「ここを読んで」と指差され、「ここを読めばいいのね」と読み始めるも、「いやそこじゃなくてここ」と指示され「あらそうなの、フフフ」。「じゃ終わったから帰っていいのね」と立ち上がるも「いいやいや、まだ!」と引き留められ、またもや「あらそう、フフフ」。日ごろのご家庭での生活が目に浮かぶ明るいやり取りが心に残りました。

伊藤俊彦さん (京都府)

28日のディナーの乾杯の音頭役で登場。人を前にする仕事での 長年の経験のなせる業か、臆することなく、まったく動ずる素ぶ りも見せず、淡々と役目を果たされました。本誌上の「本人登 場」から推測した通りのお人柄が伝わってきました。





丹野智文さん (宮城県)

開会式のスピーチ、ワークショップ、パラレルセッションとほぼ出ずっぱりの活躍でした。諸外国の初期の支援と日本の進行期の支援の両方を組み合わせて素晴らしい制度を、という提案から、とにかく感謝する、自分でコーヒーをいれたのを忘れて妻に「ありがとう」と感謝すると、「いいのよ、でも自分でいれたんだけれどね」と返してくれる、とのほほえましい家庭でのエピソードまで話してくれたのが印象的でした。



本人交流の場(詳細は各支部まで)

宮城●7月6日・20日休10:30~15:00/ 翼のつどい→泉区南光台市民センター 山形●7月19日休13:30~15:30/若年 のつどい→篠田総合病院

埼玉◎7月29日出11:00~14:00/若年

のつどい・上尾→上尾市プラザ22 神奈川®7月17日月・祝10:00~16:00 /若年のつどいと講演→ウイリング横浜 富山®7月12日秋13:30~15:30/てる てるぼうずの会→サンフォルテ 岐阜®7月23日(11:00~14:00/若年

吸草◎7月23日回11:00~14:00/岩年 のつどい→アルト介護センター長良 静岡◎7月11日似10:00~13:00/若年

のつどい→富士市フィランセ西館3階 三重◎7月23日(□13:30~15:30/若年 のつどい→四日市総合会館

京都●7月16日(日13:30~15:30/若年のつどい→京都社会福祉会館

奈良◎7月8日出13:00~15:00/若年のつどい→奈良市ボランティアセンター 鳥取◎7月26日始11:00~15:00/中部 にっこりの会→かふぇとまと

長崎●7月11日火13:30~15:30/若年 のつどい→させぼ市民活動交流プラザ

「認知症関係当事者団体」紹介の 男性介護者と支援者の全国ネットワーク 〈略称:男性介護ネット〉

国際会議での連携の成果を今後につながる一歩に!

「家族の会」を含む5つの当事者団体は、ADI国際会議のプレイベントから始まり、本番でのワークショップまで共同での取り組みをすすめてきました。これらの成果は、今後も認知症の人や家族が安心して暮らせる社会をめざすための第一歩となりました。今月号から4回にわたり、各団体から活動内容をご紹介いただきます。

■8周年記念イベント前夜祭 ■

「ケア友懇親会」で盛り上がる

今年3月11日の8周年記念プレイベントは京都タワーホテルで開催され、全国各地からこの日のために万全を期して約100名が参加、中には奥様やお母様を車椅子に乗せてこられる方もおられました。

「八重子のハミング」の原作者の陽信孝氏(本会会員)の講演に引き続き、「語ろう!全国ケア友懇親会」が開催され、これがケアメンの一番の楽しみとなっています。まずビールで乾杯し、持参の地酒やワインを片手に酒談義が始まり、ほろ酔い気分でリラックス、重い口も軽く、大いに盛り上がりました。

■総 会■

「ひとりじゃない」をキーワードに

翌日12日は立命館大学衣笠キャンパスにおいて第 9回総会が開催され、今年度は新代表に里村良一さ んが就任、荒川不二夫前代表が名誉代表となりました。

12日の午後には8周年記念イベントとして、「妻の病・レビー小体型認知症」の上映と伊勢真一監督のトーク。男性の多くは自分の姿と重ね、神妙に鑑賞していました。

今年度の活動方針として

①会員増強に取組み、「会員No.1000」を早期に達成 する(4月現在No.955)

●男性介護者と支援者の全国ネットワーク●

「男性介護者の抱える問題を社会化しよう」と2009年 3月に発足。

介護する側もされる側も、誰もが安心して暮らせる社会を目指して、男性介護者の会や支援活動の交流、及び情報交換の促進を図るとともに、総合的な家族介護者支援についての調査研究や政策提言を行っています。

〈HP〉 http://dansei-kaigo.jp/

②全国のケアメング ループに呼びかけ、リスト作りを 進め「ケアメン☆ サミット」などの イベントやフォー ラムを開催する



今年の総会で選出され、あいさつされる 里村良一代表(前列左は荒川不二夫名誉 代表(前代表))

③地域での会や集い 代表 (前代表)) 作りを推進し、身近な交流の場を広げていく

- ④「介護退職ゼロ作戦!フォーラム2017」の実施
- ⑤10周年記念事業として『男性介護体験記第6集』 を発行する
- ⑥九州ブロック・山陰ブロック・やまぐにネットなどの全国交流会・地方交流会の開催と支援
- ⑦男性介護ネット通信の発行:年に2~3回
- ⑧啓発誌『介護の扉を拓く―男性介護資料集④』の発行
- ⑨介護者の会や集いの実態把握、その意義について の調査研究や介護虐待・心中・殺人等の不幸な介 護事件防止のための調査研究など
- ⑩関係諸団体(認知症の人と家族の会、日本ケアラー連盟、日本医療福祉生協連合会、全国介護者支援団体連合会他)との連携

4月のADI国際会議において認知症当事者5団体のワークショップが開催されましたが、繋がった5団体が、今後さらに連携を深めて、介護される人も介護する人も、住み慣れた地域で安心・安全に暮せるような社会を目指して取り組んでいきます。

男性介護ネットにおいても孤立する人がないように、「ひとりじゃない。生きる勇気がわいてきた」をキーワードに男性介護者の支えあいのネットワークを強化していきます。 監事 西野 玲子

(ADI国際会議5団体ワークショップ実行委員)

新代表あいさつ・ 新役員体制紹介



- ●国際会議 海外参加者からの ありがとうのメッセージ
- ●「認知症関係当事者団体」紹介②全国若年認知症家族会・支援者連絡協議会



このコーナーに寄せられたお便りの他、入会申込書、 「会員の声」はがき、支部会報から選び掲載しています。

お便りお待ちしています!

〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル 京都社会福祉会館内

〈「家族の会 |編集委員会宛〉

FAX.075-811-8188 Eメール office@alzheimer.or.jp

介護者である自分が倒れたら…

●愛媛県 Aさん 60歳代 男性

50歳代の妻は義母と実父母の3人の介護と 看取りが終わったころから、頭が痛いと寝込む ようになりました。3年前にはうつ病から認知 症へと病名は変わり、どんどん病状は進んでい ます。今後どうなっていくのか知りたい。

私に依存しているので、私が倒れても看て くれる人がいないので心配だ。

笑顔で過ごせますように

●山口県 Bさん 70歳代 女性

介護保険制度のない時代から始まった介護 生活でしたが、同じ思いの仲間や先輩に助け られた15年でした。介護させてくれた義母に 感謝しています。

介護生活を卒業して、今なお、県支部の介 護中の方たちに教えられ、学ばせてもらって います。自分のため、家族のためにも学べる つどいへ参加を続けています。

介護中の方々は参加されると笑顔で「また、頑張ります!」と帰られます。次回の参加がまた笑顔でありますように…。



精神的に辛い日々

●岡山県 Cさん 70歳代 女性

夫は真面目な性格で、家族のために一生懸命働いてくれました。72歳のころ、運転していて、アクセルとブレーキを踏み違え事故を起し、免許証を返納しました。75歳のころには、タバコを買いにでかけて行方不明になり、警察のお世話になったのを機に受診しました。アルツハイマー型認知症と診断を受けました。夫の対応に困っていた時、「家族の会」の会員さんに出会い、つどいに参加しました。毎日、夫のいろんな行動に悩まされ、戸惑うばかりで、精神的に辛い日々を過ごしています。

入浴をいやがる母

●神奈川県 Dさん 50歳代 男性

民間老人ホームで職員として働いています。杉山先生の「認知症の医療知識」の講習会の中で、「家族の会」のことを知り、入会したいと思いました。

同居の母は入浴をいやがります。まだ初期の認知症でもあり、身体の痛いところなどもないので、デイサービスに行っている時には「ここにいなくても大丈夫と友だちが言っている」と言い、家では「息子にお風呂に入れてもらうなんて…」と言います。どうすればいいでしょうか。週に1回でもお風呂に入れればいいと思っています。

症状に気がついて10年

●宮崎県 Eさん 50歳代 女性

夫は1年半ほど前に前頭側頭型認知症と診断されました。症状に気づいてからは10年たちます。食事、ハミガキ、着替え、オムツを替えること、自分では何もできないけど、感情的に怒ったり、泣いたり、笑ったりはします。病院に入院中で、たまに外出で家に帰りますが、なかなかうまく世話ができません。病院に帰る時はいやがるのを無理やり連れていきます。以前は、リハビリに行ったりしていましたが、それもいやがっていました。

私たちが緩衝剤

●埼玉県 Fさん 40歳代 女性

同居の義父は軽度認知症の症状がありますが、まだ日常生活に支障をきたすほどではありません。一度、鍋を火にかけたまま外出し、出火寸前のことがあり、それから自動消火機能付きのガスコンロに変えたり、家族で注意して問題なく経過しています。

義母が義父に話が通じないと怒ることが増えているので、嫁の私や孫が緩衝剤になりながら、今の生活をできるだけ長く続けられるようにしたいと思っています。

農業をする意欲はある

●沖縄県 Gさん 60歳代 女性

夫はアルツハイマー型認知症と診断されてから、今年の6月で3年になります。最近は自分で話したい言葉がスムーズに出てこなかったり、少しのことでも本人の意に添わないことを私が言うと、怒り、罵声を発します。しかしまだ農業をする意欲はあり、本人が植えたい野菜や果樹などを育てています。



母のあるがままを受け入れる

●長野県 Hさん 60歳代 女性

89歳の実母は、島根県で弟夫婦と同居していました。2年前、週3日のデイサービスがやっと定着したころ、弟は癌がわかり、半年の闘病であっというまに亡くなってしまいました。母は弟の発病とともに、認知症がさらに悪化したようでした。たまに見舞いには連れていってもらっていたようですが、死に目にさえ会わせてもらえませんでした。弟のお嫁さんは諸事情があって母と一緒に暮らすつもりはないとわかり、私が母を引き取ることにしました。

同居を始めてこの1年、生活そのものは山あり谷ありですが、子どもたちや教会の仲間たち(母も私もクリスチャンです)の助けを受けながら、私も介護者として少しずつ学び、慣れてきたころ、多分疲れが出てきたのでしょう。心身に不調を覚えるようになってきました。

そんな時、ポーリン・ボス著『認知症の人を愛すること』を読み始めました。この本が新たな気づきをいくつか与えてくれました。 今の私の症状は別に特別なことでもなんでもないこと、でも、ほっておくと悪化するので、よい介護を目指すなら対処が必要だとので、と。母の症状が今より悪くなって気づるということに不安を否認するというたと。でも、本の中に「不安を否認するというとと。でも、本の中に「不安を否認する精神を安定させてくれる」とありました。「他の人との交流が意味と希望をした。「他の人との交流が意味と希望とした。「他の人との交流が意味と希望とした。「他の人との交流が意味と希望とた。

> ※お名前はイニシャルではありません。 年齢は「50歳代」等で表記しています。